

# 松陰

## show-in

国士舘大学図書館報  
第24号  
2010年9月22日

## ご挨拶

附属図書館長 藤田 忠(文学部教授)

2010年4月1日付けで図書館長に就任いたしました藤田 忠(文学部・東洋史学専攻)です。よろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、インターネット、図書資料の電子化等による各種情報の多様化で、大学図書館を取り巻く環境は大きく変化しています。このような中、教職員・学生諸君また地域住民が気軽に足を運び、効率よく調べ物が出来、分からなければ気軽に館員に質問をして瞬時に解決して目的を達することができ、そのあとはゆったりと誰にも邪魔されることなく、自由に自分のペースで心行くまで調べ物をし、納得して、有意義な時間を過ごし、終われば少し豊かになった気持ちが持てるスペースが図書館です。さまざまな情報を発し、工夫を凝らし最

## CONTENTS

- 巻頭言 ご挨拶
- 第6回学生選書ツアー
- 田村正師匠による紙漉き講演会
- 経営・教育課題と大学図書館
- おすすめの本
- お知らせ/開館スケジュール



大限のサービスが提供できるよう館員一同が日夜頑張っています。そのひとつとして、すでにご存じの通り6月から閉館時間が午後10時30分まで延長されています。

いき届いた十分なサービスを提供するためには絶えず時代の、教職員・学生諸君のニーズに合った、地域住民の要望にこたえられる、あるいはそれ以上の対応ができるような設備と機能をつぎつぎと更新していき、支援できる体制を整えて、いつでも教職員・学生諸君・地域住民の要望に応じていく必要があります。ところが現実はこちらと逆行するような施策がとられ、例えば業務委託化による専任職員の人員削減、図書予算費の据え置き・減額等が行われています。

人口に膾炙されていて、ご存じだとおもいますが『論語』（為政篇）に「温故而知新、可以為師矣」（故きを<sup>より</sup>温<sup>あたた</sup>めて新しきを知る。以て師と為すべし）と言う語句があります。いまさらくどくどと説明を加えるまでもなく、図書館はその宝庫です。知識を蓄積し、人格を形成し、人間を成長させてくれる貴重なスペースです。いつでも誰でも温かく歓迎します。オープンスペースで待っています。

教学の中枢を担う中心的機関である図書館は、今後どのような学習・研究支援が行うことができるのか、将来を見据えてじっくりと考え、取り組んでいかなければなりません。国士館大学附属図書館のより一層の充実と発展に強力な後押しを衷心からお願いいたします。とともに多くのご意見・ご要望をお寄せいただきさらなる飛躍を遂げたいと考えております。

（ふじた ただし）

# 第6回学生選書ツアー



選書ツアーで選んだ本は、176冊です。  
詳しくは、展示場所の目録をご覧ください。

本学では、恒例となりました選書ツアーも今回で6回目を迎えることとなり、前回に引き続き紀伊国屋書店新宿本店で2010年6月18日に実施されました。学生さん一人ひとりが、多くの方に読んでいただきたいと願いながら例年になくじっくり時間をかけて選んでくれました。皆様のご利用をお待ちしています！



“選書ツアー” 頑張ります！

## 学生選書リスト一部

1. フリーター、家を買う
2. 教職教養の過去問：徹底解説〔2011年版〕
3. 経済成長って何で必要なんだろう？
4. 就活のまえに：良い仕事、良い職場とは？
5. 百年の孤独
6. オバマ東京演説
7. 一生稼げる「自分」をつくる！
8. すごい会議：短期間で会社が劇的に変わる！
9. あなたの潜在能力を引き出す20の原則と…
10. 伊藤塾1分マスター行政書士 重要条文編
11. ニート・ニート・ニート
12. 一発合格らくらく宅建塾 2010年版
13. お兄ちゃんは自閉症：双子の妹から見た…
14. 憲法はむずかしくない
15. ips細胞：世紀の発見が医療を変える

第1司書課 松本弥生



**田村正 師匠 による紙漉き講演会**  
**「循環型社会の形成を和紙から学ぶ」**  
**と紙漉き実演・体験を開催しました**



「国民読書年企画第2弾」として紙漉き継承者の田村正師匠による講演会が2010年7月14日中央図書館4階AVホールで開催されました。本学学生、教職員、図書館公開利用者様など約70名という、予想を超えてはるかに多くの方が参加され、おかげ様で大盛況のうちに無事終了することができました。

「見る楽しみと触れる感動」を同時に楽しめた今回の講演会で、参加した学生は「田村師匠からいろいろ教えていただき、最高の体験ができました。ありがとうございました。今度チャンスがあったら、もう一度来てほしいです。」と嬉しそうに語っていました。

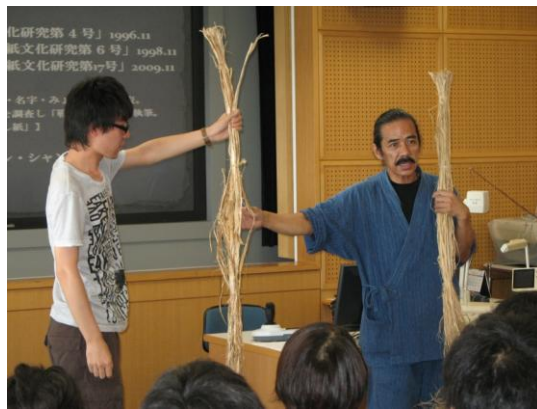
サブタイトルの～国籍を超えて日本の伝統文化に触れてみよう～のとおり、多くの外国人留学生が、日本人学生と共に楽しんで学んでくれたことに、図書館員として改めて田村正師匠に御礼申し上げたい気持ちです。

また今回はライブラリー・サポーターを募り、師匠の一日弟子をお願いしました。そのサポーター学生の感想を一部ここでご紹介いたします。

▼田村師匠から紙漉きを伝授される  
ライブラリー・サポーター



▼講演会でも田村師匠の弟子として大活躍



■大学院 修士課程 政治学研究科 交換留学生 張 昕（チョウ シン）さん

図書館主催の「紙漉き講演会」のポスターを見て、是非参加したいと思い応募したところ、田村師匠の弟子としてのライブラリー・サポーターの誘いを受けました。師匠のお手伝いができるか不安はありましたが、喜んで受けることにしました。

師匠は、厳しいように見えますが、実はとても優しくユーモアに溢れた方です。朝紙漉きの準備が終わったあと、師匠が私たち一日弟子に紙の作り方を丁寧に説明して下さいました。初めて自分の手で紙を作ることができました。これは一生の中でも貴重な経験だと思います。

午後には仲間のサポーター学生達と一緒に、師匠の指示に従い日本の伝統文化「紙漉き」に参加者に教えながら、楽しくやりました。弟子としての緊張感もありましたが、本当に楽しかったです。

## ■政経学部経営学科 蔣 恵（ショウ ケイ）さん

7月14日、和紙づくりの体験をしました。師匠から和紙を作る手順など、日常生活では体験できない、いろいろなことを親切に教えていただき、とてもよい経験になりました。本当にありがとうございました。私だけではなく、たくさんの学生たちも熱心に参加していました。和紙も作る途中失敗することがありますが、諦めずに最後まで頑張って仕上げました。皆さんからも笑顔が溢れ、とても嬉しそうでした。今後またこのようなチャンスがあれば是非とも参加したいと思います。私にこのような体験をさせていただき本当にありがとうございました。

## ■文学部文学科日本文学・文化専攻 交換留学生 呂 喆（ロ テツ）さん

たまたまのきっかけで、紙漉き体験教室のボランティアの一員になりました。みんなで力を合わせて田村師匠を手伝ったり、初心者の方の学生さん達のお世話をしたりと、とても楽しかったです。一日よく頑張った分、満足感も大きかったです。紙漉き体験教室を通して、日本文化を肌で感じられ、和紙文化に対して一層理解を深めました。日本での一年間の素晴らしい思い出になりました。

## ■法学部法律学科 佐藤一真（サトウ カズマ）さん

私は、田村正師匠の紙漉き体験に参加し、一日ですが弟子となりました。最初に師匠から、普段何気なく使っている紙から、伝統的な和紙と呼ばれるモノについて、その繊維などの特徴を用途や成り立ちから説明していただき、その後に実際の紙漉きに入りました。

よく巷で行われるような、牛乳パックを再利用した安易な方法ではなく、楮（こうぞ）の皮を剥いで洗い、叩いて繊維にしてトロロアオイを加える、イチから作る作業を目の当たりにできることは実に貴重で、よくテレビなどで見るワクを使った紙の形成も実にコツのいる作業で、改めて体験したからこそ発見したことが多かったです。

作業の合間に師匠は、アジアや欧州諸国で紙漉きの講演をしたことや現代での紙の歴史などいろいろなことをお話していただき、参加者一同とても満足したように思えました。

紙の文化、歴史に触れることでこれまでとは違った角度で、本に接することができるかと私は感じました。今後も何か体験するようなイベントがあれば、是非多くの学生や近隣の方に参加していただきたいと思っています。

▼楮（こうぞ）の皮を剥いで叩く作業から行った本格的な紙漉き体験



▼田村師匠の紙漉き実演に魅入る参加者





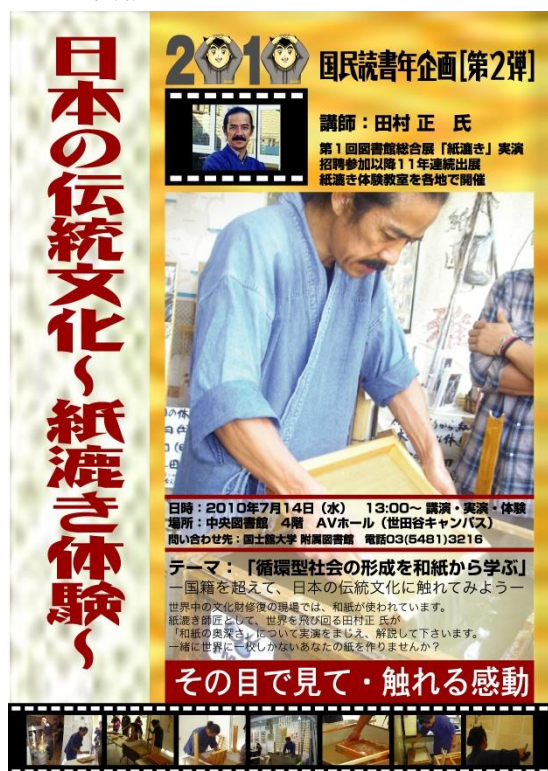
▼田村師匠の実演・体験会場風景



▼紙漉き体験に挑戦された藤田図書館長



▼開催をお知らせしたポスター



▼田村師匠と参加者の真剣な眼差し



たくさんのご参加  
ありがとうございました。



第1 司書課 古川清子

# 「経営・教育課題と大学図書館」

2010.09.10 図書館事務部長 植田英範

大学の教育力に関連した拙論を、大学新聞第 481 号 (2010. 7. 25) に寄せた。紙面の都合で、十分に説明し切れなかった、誤解が生じる恐れもあったと感じたので、これを補完するのがこの稿の目的である。

## 【情勢→収入源創造】

まず、大学を取り巻く状況について。ご周知の通り 2008 年総務省の人口動態調査では、2055 年の 18 歳人口が 60 万人台となっている。つまり、このまま 800 大学余が生き残れば、各大学学生数は今の半数になる勘定で本学は約 7,000 人、現状の財務内容から推し量れば人件費すら調達出来ない。弱肉強食論からすれば、さらに厳しい。現在 5 割強の進学率で約 63 万人受け入れが、40 年後仮に 6 割に進学率が上がろうとも 40 万人に満たない。いま国公立大学は 32 万人受け入れている。抑制が掛かり、このまま推移しないにしても、この残りだけでは 6 大学並大手私学でさえも定員割れとなる勘定なのである。日東駒専とか大東亜帝国だとか揶揄されるその他の大学には、統計的には入学者が無くなる。現実には、大学氷河期が 1970 年代に経験した米国の場合も、マンモス大か、特色あるローカルの伝統校の一部しか生き残れなかったという。マンモス大とは、学生数規模または大学経営の予算規模の何方かでも上位校になっていることをいう。つまり、日本の場合乱暴にいうと、生き残るためには学生数が 3 万人以上か、予算規模が 400 億円以上の規模があるか、或いは特色あるローカル大である必要がある。右習えの間に皆潰れているか統合吸収されているという、笑えない現実が待ち受けていると言える。人口減の逆風のなかで、学生数を増やす、つまり収容定員を増やすことは並大抵ではなく、現実的には①分かる経済効率(割安型、資格取得型)②時代の先取り(夢追型、デビュー型)、この二つ以外には方法が見あたらない。予算規模を増やすこと、つまり新しい収入源をつくり、校納金収入の依存率を下げることも簡単ではない。何時までも共同研究・産学連繋だけの幻想に囚われていては、結果的にはエージェンシーコストの増加だけである。因みに、かの時期の米国の場合、平均 85%にも及んでいたこのカットが最大の経営課題であった。その轍があるので、不況期の個別的教育改革とか研究実績の競走優位や差別化政策の過度な期待は禁物である。

収入源は、新事業を除けば、現有資産や過去の大学成果物に付加価値をつける事、つまり一部商用に変えることが最も現実的と考える。特に今後注視すべきは、感性の豊かな学生の諸活動が産み出すエンターテインメントや競技・発表成果、それらをコンテンツ化することによる付加価値である。幸い大学には、現代メディア界が展開するマーケット商材の全てがある。その鍵は「学生デビュー」である。

## 【先例→学生デビュー】

米国ペンシルベニア州ピッツバーグに、カーネギーメロン大学というアメリカ有数の名門工科大学、特にコンピューター科学で有名な学生数 4 千人台 (1978 年訪問時) の大学がある。かの次期は瀕死の経営状態だったが、「Drama Division」(芸術学部?)を創設し、ニューヨークのカーネギーホ

ールで毎年公演を行なうという企画(学生デビュー)を付加した。生涯、一度でもカーネギーホールに立ちたい、という夢を持つ歌手や演劇の卵たちが殺到し、これを追う他学部学生も押し寄せた事は言うまでもない。かくして、日本の銀行からの留学生が多いビジネスゲームの発祥大学は生き残り「卒業後はただちに経営者になれる」と、豪語する程のビジネス人材育成のメッカとなった(ノーベル経済学賞授与式で会えなかったハーバート・サイモン教授の代理、江尻教授談)。いまや、インターネットのライブ配信は、ミニ放送局。大学リポジトリは、論文アーカイバから巨大エンターテインメント・データベースに変わる。「学生デビュー」は、時代の追い風である。

### 【情報環境→煩雑の肥大】

大学図書館の役割が、ICT 普及、電子資料の充実、取り分け Google や Amazon ビジネスの進展で激変しつつある。学生たちの学習・研究資料の入手先が、本・雑誌という旧来の資料からインターネットの先に求める傾向も顕著である。図書館が蔵書数や入館者数で評価される時代は、いま過ぎ去ろうとしている。だが、年間 1.8ZB(ゼットバイト; 10 の 21 乗バイト。2011 年度予測値。およそ世界の砂浜の砂粒数に匹敵)という情報生産量の前では、Google や契約データベースで検索できる情報は約一割程度であろう。それでも、一般的キーワードで検索なら数十万ヒットなどと、殆ど無いに等しい無惨な結果が返される。また、e ジャーナルや学術データベース大手は外国ベンダーに占められ、アクセス権の与奪は不幸にも必要性ではなく予算に握られている。情報検索というネットワークアクセスも加速度的に上昇している。そこには、身の回りに課題が生じれば即情報検索、という現代人の行動特性が反映している。反面、意外にも生産性が向上しないとの指摘がある事も事実である。検索や、その結果の評価・比較検討、創造のプロセスが稚拙、つまり、情報リテラシーのスキル度が、ビジネスやコンテンツ生産性に最も大きく影響し、これの訓練が無かったことに気が始めている。だから、現代的ニーズを理解すれば、多様なメディアで構成される膨大な知的資産(情報)を抱える図書館の情報リテラシー教育など、その存在価値にソリューション・ベンダー的サービス品質を求めることも必然である。

### 【レファレンス→学習カウンセラー】

いま利用者は、図書館にきて「あの資料を下さい」「どこにあるか?」という類いの要求は減っている。「あれは、どうすればいいのですか?」「これ、教えてください」「分かんなくて、困ってるんですけど」という課題を持ち込むことが、殆どなのである。利用者はすでに、図書館に行けば課題解決の糸口が掴めるかも?と、既に理解しているのだ。コンテンツ創りの中から得られたノウハウも、レファレンサーの必須スキルである。その活躍は、図書館内に留まらず、学食や教室、研究室や部室など学内小コミュニティーへと拡大してゆくだろう。既に、教員が学生の問題点を書き留め、図書館へ持って行かせてトレーニングを受けさせるなども出てきた。ヘルプデスクやラーニング・コモンズの話題である。このとき、図書館員は間違いなく、カウンセラーまたはプチ・ティーチャーなのである。教室では全てを消化しきれない教育課題に対する、欧米諸国の潮流である。大学の教育力政策は、いまや図書館を巻き込まなければ成り立たない。(完)



2010 年 9 月の

# おすすめ



## 企業と法を見る目に確かさを／吉川吉衛[ほか]著

東京 成文堂 2010.3(国士館アカデミア叢書10)

所在・請求記号: 中央5階 335.15//Ki16 各館に所蔵あり(☆本学出版物)

## アバター／ジェームズ・キャメロン監督・脚本・製作

東京 20世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン(発売) c2010

所在・請求記号: 中央4階 AV DVD//778.253 各館に所蔵あり(館内利用のみ)

## 生き方に迷うあなたに、今伝えたいこと / あさのあつこ [ほか著]

[東京]: 日経 BP 社, 2010.4

所在: 中央1階

## 体脂肪計タニタの社員食堂: 500kcal のまんぷく定食／タニタ著

東京 大和書房 2010.2

所在: 中央1階、多摩にあり

## 日韓で考える歴史教育: 教科書比較とともに／梅野正信責任編集

東京 明石書店 2010.6

所在: 鶴川3階 375.32//N73

## これからの「正義」の話をしよう: いまを生き延びるための哲学／マイケル・サンデル著

東京: 早川書房, 2010.5

所在: 中央1階、鶴川3階 311.1//Sa62



## お知らせ

■夏季休暇期間中の貸出し ※対象は、本学学生のみです。

返却日は学部生・大学院生ともに 平成22年9月27日(月) です。

忘れずに！！



## 開館スケジュール (9~11月)

3館: 9月20日(月) 授業日のため開館  
9月24日(金) 振替休日のため休館  
10月11日(月) 授業日のため開館  
10月13日(水) 振替休日のため休館  
11月3~4日(水、木) 楓門祭、創立記念日のため休館  
多摩図書館のみ: 11月13日(土) 多摩祭のため休館

※変更になる場合がございますので最新の情報は図書館ホームページをご確認ください。

## 編集後記

先日、東京国際ブックフェアに行ってきました。図書館員としては大変楽しい催しです。しかし、最近の動向でやはり電子書籍関係のブースが目立ってきましたね。図書館としてはこの先どういう方向に向かうのだろうか、気になるころではあります。私的には書籍1冊1冊手にとって眺める楽しみは捨てがたいです。きっと棲み分けされていくのだろうとは思いますが、今年は猛暑続きで大変な夏でしたが、もう少しです、秋はそこまできます。きっとね。(Y.S)